

問題編(「文法編」・「語法編」)について

・構成と心構え

本編は「文法編」全14章、「語法編」全6章から構成されています。すべての問題が最新の入試問題から厳選されたベストのもので、(なんとなく問題を解く)というのではなく、(何が問われているのか)や(どう考えればよいのか)を常に意識しながら、じっくり時間をかけて取り組んでみてください。

具体的に言えば、文法問題は以下の3つに分類することができます。

定型型：語法問題や定型表現など瞬時に解答が決まるタイプ

文脈型：時制・助動詞・接続詞など英文の意味を理解する必要があるタイプ

構造型：準動詞や関係詞など構造に留意する必要があるタイプ

問題を解いていく中で、各問題がどのタイプに分類されるのかを意識できれば、問題を解く際だけでなく解説を熟読する際にも(何を重点的に理解すればよいのか)や(何を覚えればよいのか)といったことがより明確になり、効率的な学習を進めることができます。

・問題形式

前述のように1つ1つの問題に時間をかけて取り組んでもらえるよう、問題形式はすべて客観式の4択問題に統一されています。整序問題や正誤指摘問題といった入試で頻出の問題形式については、後載の「実戦テスト編」にて十分な数を用意しているので、本編では(問題形式への慣れ)ではなく、(英文法の本質の理解と暗記)に重点を置いた学習を進めてください。

・活用法

最初に問題を解いた後は、その正誤にかかわらず必ず解説編を熟読してください。間違えてしまった問題や自信のなかった問題については、問題番号の下にあるチェックボックスに印をつけておき、解説編を熟読の後、時間を置いて再度解き直してください。

※なお、問題文や選択肢の中には、英米のネイティブスピーカーと協議の上、一部変更したのものもあります。

目次

文法編

第 1 章	「時制」	2
第 2 章	「受動態」	6
第 3 章	「助動詞」	8
第 4 章	「仮定法」	13
第 5 章	「動名詞」	16
第 6 章	「不定詞」	19
第 7 章	「分詞」	24
第 8 章	「関係詞」	29
第 9 章	「接続詞」	36
第 10 章	「前置詞」	42
第 11 章	「比較」	53
第 12 章	「主語と動詞の一致」	60
第 13 章	「疑問文と語順」	63
第 14 章	「否定・省略・強調」	69

語法編

第 1 章	「動詞の語法(文型中心)」	74
第 2 章	「動詞の語法(定型中心)」	84
第 3 章	「名詞の語法と冠詞」	92
第 4 章	「代名詞の語法」	97
第 5 章	「形容詞の語法」	102
第 6 章	「副詞の語法」	108

問題編(「実戦テスト編」)について

・構成

「実戦テスト編」は全18回分用意しています。各回計25問構成で、内訳が「客観式の4択問題…10問」、「正誤指摘問題…8問」、「整序問題…7問」となっています。いずれも最新の入試問題から厳選した問題ですが、あえて大学名を問題編に掲載しないことで、先入観なくより入試本番に近い心持ちで問題に取り組むことができるようにもしました。

・実戦テスト編のカテゴリーとレベル

「実戦テスト編」では、以下のように各文法項目を4つにカテゴリー化しています。

カテゴリー1：動詞周辺(時制・受動態・助動詞・仮定法・動詞の語法文型)

カテゴリー2：準動詞と動詞の語法(動名詞・不定詞・分詞・動詞の語法定型)

カテゴリー3：句節関係と名詞・代名詞(関係詞・接続詞・前置詞・代名詞・名詞の語法)

カテゴリー4：形容詞・副詞・比較とその他重要項目

(比較・一致・疑問文・否定・形容詞・副詞の語法)

どのカテゴリーに対応しているのかについては各回冒頭のタイトルにて明示しています。また、あえて難しめの問題を交えたり、カテゴリーを複合化したりといった形で、回を重ねるごとに難易度が少しずつ上がるようにもしてあります。各回のレベルについては、★の数で示しているので、事前にこれらを確認して少しでも不安があれば「文法編」・「語法編」に一度立ち返って復習してから取り組む、ということも可能です。

・正誤指摘問題について

英文に施された下線部のいずれかが不適切な表現となっている問題です。解答する際は不適切な箇所を指摘するだけでなく、〈正しい形に書き換える〉ということまで意識してください。また、正しく直した英文が〈どういう意味になるか〉を考えることで、リーディングやライティングの力も磨くことができます。

・整序問題について

英文中の()内の語(句)を並びかえて正しい英文を作る問題です。この整序問題でも並びかえた後の英文が文法的に正しいかどうかだけでなく、〈どういう意味になるか〉ということまで考える意識を持つことで、リーディングやライティングの力を磨くこともできます。

※なお、問題文や選択肢の中には、英米のネイティブスピーカーと協議の上、一部変更したのものもあります。

目次

実戦テスト編

〔ステップ1〕

実戦テスト 1	(カテゴリー 1)レベル★	2
実戦テスト 2	(カテゴリー 2)レベル★	4
実戦テスト 3	(カテゴリー 3)レベル★	6
実戦テスト 4	(カテゴリー 4)レベル★	8
実戦テスト 5	(カテゴリー 1)レベル★★	10
実戦テスト 6	(カテゴリー 2)レベル★★	12
実戦テスト 7	(カテゴリー 3)レベル★★	14
実戦テスト 8	(カテゴリー 4)レベル★★	16

〔ステップ2〕

実戦テスト 9	(カテゴリー 1・2)レベル★	18
実戦テスト 10	(カテゴリー 3・4)レベル★	20
実戦テスト 11	(カテゴリー 1・2)レベル★★	22
実戦テスト 12	(カテゴリー 3・4)レベル★★	24

〔ステップ3〕

実戦テスト 13	(カテゴリー 1・4)レベル★	26
実戦テスト 14	(カテゴリー 2・3)レベル★	29
実戦テスト 15	(カテゴリー 1・4)レベル★★	31
実戦テスト 16	(カテゴリー 2・3)レベル★★	33

〔ステップ4〕

実戦テスト 17	(オールカテゴリー)レベル★★★	36
実戦テスト 18	(オールカテゴリー)レベル★★★	38

「Dual Effect」の4大特徴

1 文法項目の体系的理解 × 実戦力養成

本書は、「文法編」678題・「語法編」372題の計1050題の問題演習による文法項目の体系的理解と全18回分(計450題)の「実戦テスト編」演習による実戦力養成という従来2冊必要であったものを1冊にまとめているので、入試直前期まで使える問題集となっています。

どの問題も最新の入試問題を中心に厳選した良問なので、まずは客観式の4択問題のみで構成されている「文法編」・「語法編」に時間をかけてじっくり取り組み、英文法をその本質から広く深く理解できるよう学習を進めてください。その後、より入試本番を意識した「実戦テスト編」にも取り組むことで、それまでに培った知識をより確固たる実戦力にまで高めることができます。

2 問題の核心へのアプローチ × より深い知識へのアプローチ

本書の解説は、予備校講師としての長年の経験をもとにした「何をどう考えれば正解に近づけるのか」という視点を重視したものになっています。そのため「ポイント」や「不可」に記されていることはすべて問題を解く上で重要な知識や考え方なので、問題を解き終わった後は必ず熟読してください。

加えて、その問題だけでは手に入らない重要な関連情報については「プラス」に例文とともに記されています。より深く応用範囲の広い英文法の知識を学ぶことができるので、こども熟読するようにください。

3 理解 × 暗記

文法問題には、「文意や文の構造を考察してはじめて解答できる問題＝本質を理解して解く問題」と「覚えていればすぐに解答できる問題＝暗記して解く問題」とがあります。この両タイプを同じように学習していくのはその性質上少し非効率な面があります。本書の解説では、「理解すべきこと → 「ポイント」「不可」「プラス」・「暗記すべきこと → 「Group」といったように分業することで、メリハリのある学習を行えるようにしました。

「Group」は計101個用意しており、入試問題を解くために必須の暗記知識をリスト化しています。付属の赤シートを活用することで暗記箇所を隠すことができるようになっているので、随時活用してください。

4 英文法 × 英語 4 技能

近年の大学入試や外部検定試験などでは、英語 4 技能(リーディング・リスニング・ライティング・スピーキング)の運用力を問う問題が比重を占めるような傾向にあります。本書の解説では、各技能で頼出の知識・表現に各種アイコンを施し、**どの知識がどの技能で役に立つのか**を明示しています。

加えて「文法編」・「語法編」・「実戦テスト編」の問題英文の音声データ(詳細は次ページ参照)を活用した英文のディクテーションやシャドーイング、付属の赤シートで訳文を隠すことで和訳やライティングの練習などでもできるようにしました。

前述の通り、本書は英語学習の土台ともいえる《英文法の習得》を主たる目標にしましたが、《実戦力養成》・《知識の深化》・《暗記対策》・《英語 4 技能対策》といったように活用法によって多岐に渡る効果が期待できます。《英文法》をベースとした各方面への「Dual Effect」(2重の効果)を生み出すことができる問題集、それが本書の名前の由来であります。

「受験生の皆さんが多様に変化する大学入試に打ち勝てますように」

そんな願いを込めた本書が実際に皆さんの夢の実現に少しでもお役に立てることを切に願っております。

解説編について

・解説中の各種記号

解説本文の項目

ポイント …問題を解くために必要な知識について述べている部分

不可 …誤答である理由について述べている部分

プラス …重要な関連事項を補足的に説明している部分

※なお、本書解説中の英語表記の部分にある[]は言いかえができることを、()は省略ができることを原則として表しています。

4 技能アイコン

R…リーディングで頼出の表現

W…ライティングで頼出の表現

S…スピーキングで頼出の表現

難易表記

基礎…入試時点で多くの受験生が正解するであろう問題

標準…入試時点で正解不正解が半々に分かれるであろう問題

発展…入試時点で多くの受験生が不正解であろう問題

・問題英文の音声

本書の問題英文は音声データ化しているので、配信サイトにて聴くこともできますし、パソコンにダウンロードして聴くことも可能です。

音声は文法編「B01」～「B14」、語法編「G01」～「G06」、実戦テスト編「T01」～「T18」と各章でファイル分けしております。